

## ーアクティブ・ラーニング科目「ボランティア活動」実践ー ボランティアチームに参加し、被災地で生きた学びを実感

今年度から開設された共通教育科目アクティブ・ラーニング科目では、教員の指導のもと学生が自ら考え、さまざまな活動を行っています。アクティブ・ラーニング科目「ボランティア活動」を履修する生活環境学部環境デザイン学科4年生の小野汐帆美さんは今年4月から「チームレスキュー」の震災ボランティアに参加。被災地でのボランティア活動に励んでいます。

小野さんはお父様がNPO法人の



レスキューストックヤードで評議員をされている関係で、今回学生ばかりのボランティア団体「チームレスキュー」に参加。これまでに7回、宮城県七ヶ浜町の被災地を訪れて、がれきの撤去や浜の掃除などを行っています。中には国道から浜まで道路を造るなど、大変な作業も。「被災地を目の当たりにして、最初は言葉を失うほどショックでした。でもボランティアに参加し、自分にもできることがあることを実感し、毎回達成感を味わっています」と話す小野さん。現地の人々との絆も深まり、より一層ボランティア活動にも力が入ります。また現場での生きた学びは、自分のこれまでの価値観を変えたとも話します。

今回「アクティブ・ラーニング科目」の説明会で、小野さんはこうした自分



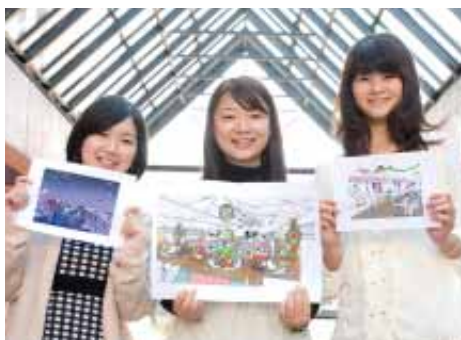
小野 汐帆美さん

のボランティア体験談を話しました。その説明会に参加した学生の中にも、小野さんの活動に共鳴して「チームレスキュー」の仲間となった人がいます。「アクティブ・ラーニング科目を通してもっと多くの人がこうした活動を積極的に行ってもらえたらうれしい」と話す小野さん。後輩の皆さんにも引き継いでもらえたら、と期待しています。

## ーアクティブ・ラーニング科目「学生プロジェクト」実践ー セントレアのイベントを企画

アクティブ・ラーニング科目「学生プロジェクト」を履修する文学部英語英米文化学科3年の伊藤友恵さん、松井温香さん、成田知佳さん。3人は今回、中部国際空港株式会社(セントレア)でイベントの企画を行いました。

松井さんらは飛行機利用以外で人々がセントレアに足を運ぶようなイベントを企画しようと計画。まずは本格的な活動を前に、学内でアンケート



を実施。セントレアに飛行機利用以外の目的で行ったことがあるかどうか、ある場合その理由は何かを調べました。「アンケートをまとめているうちに、女子学生が来るイベントを提案しようと、方向が少し変わりました」と話す松井さん。中部国際空港からは、にぎわい創出グループのスタッフが3人の活動を支援。意見を伺ったりアドバイスをもらったりと少しずつ企画を実現させていくためのステップを積み重ねる中で、企画にかかる費用、人員といった問題に直面することも。「イベントを考えることはできても、実現するのは大変」と3人はその難しさを実感しました。

こうした体験の中からさまざまな



伊藤 友恵さん 松井 温香さん 成田 知佳さん

ことを学び、現在はクリスマスに向けたイベントを企画し、実現に向けて活動を続けています。「実際に企業の方とのやりとりをする上で、インターシップ経験から学んだマナーなどが生かせたと思います」と話す伊藤さん。「就活しながらの時間調整は正直大変でしたが、企業の方も後押ししてくださって、心強かったです」と充実したようです。3人の活動が形になり、今後、学生たちの取り組みのモデルとなることを願っています。

※アクティブ・ラーニング科目のうち「異文化体験」「ボランティア活動」「学生プロジェクト」は2010年度以前の入学生も履修することができます。

## 「生徒会ACTION」で高校生徒会が積極的に支援ボランティアを展開

高校生徒会は東日本大震災支援ボランティアを4月から継続的に行っています。5月には被災地の子どもたちの心の支援として絵本を集め、岩手県児童館いわて子どもの森やNPO法人地球の楽好へ送りました。同じく5月から金城うちわに応援メッセージを書いて送る「うちわ大作戦」を決定。各クラスに趣旨を説明し、うちわを制作しました。「大変だったけど目的が果たせて嬉しかった」と生徒会副会長の北村まどかさんは話します。うちわは先生方が仙台・石巻キリスト教会を訪問された際に渡されました。

こうした先生方の被災地訪問の様子と写真をまとめ、文化祭で展示。また、右の写真のようなクラス毎の応援メッセージも発表。この応援メッセージは同盟校の東北学院高校に送る予定です。

また宗教委員会のメンバーがYMCAで支援に行かれた方の話を伺い、それぞれ思ったことをまとめて春の伝道週間で各クラスに配付。さらに4月から行われている生徒会企画放送で



もリクエスト曲とメッセージを募集するなど、今後も積極的な活動を続けていきます。

## 金城学院らしく、地元根ざした内容で研修 2011年度関西地区YWCAカンファレンス

高校では8月1～3日まで「2011年度関西地区中高YWCAカンファレンス」を開催。本学院からは中、高のYWCAに所属する生徒25人、中部や関西地区のキリスト教女子校から



は9校約110人が参加し「御言葉によって生きる～聖書を知った人生～」をテーマに研修を行いました。

カンファレンスは毎年各学校持ち回りで開催され、今年は金城学院高校で行われることに。「金城学院だからこそできる、地元密着のプログラムに」と宗教総主事の小室尚子先生に講演を依頼。愛知県ならではの題材として、江戸時代に初めて聖書を日本語に訳した愛知県美浜町の3人の漁師、三吉について講演をされ、その後生徒たち

がグループに分かれてそれぞれ三吉についてディスカッションを行いました。また徳川美術館見学も行い、貝合わせやすごろくなど江戸時代の遊びを楽しく体験しました。

今回の開催にあたり、生徒たちが事前に三吉のことについて調べてまとめたしおりを作成。校内はもちろん、他校生との交流もより深まり、充実したカンファレンスとなりました。



## 書道部が清洲城で初の書道パフォーマンスを披露!

高校書道部は8月25日に清洲城の江姫特設展示に伴うイベントで「姫たちの舞」と題して初めての書道パフォーマンスを行いました。

パフォーマンスは「凜」「舞姫」「愛の花」「百花繚乱」という文字を行書や草書、隷書で書き、色墨で花を描くなど

華やかな作品を創作。生徒たちの力作にお客様でいらしていた書道家の方からも「すばらしい作品ですね」とおほめをいただきました。

しらゆり祭や名古屋城でもパフォーマンスを発表。今後の書道部の活動に大いに期待いたします。



## Kinjo Color Action～私たちらしく、今できること～ 被災地支援活動を展開

中学・高校の今年の文化祭のテーマは「Kinjo Color Action」。中学校は「～私たちらしく、今できること～」を副題に被災地支援活動に取り組んできました。

5月には震災で被災した子どもたちの心のケアのために活動を行うNPO法人ICANとの協働で文房具や絵の具、折り紙や絵本などを収集。集

めた文具類は6月に宮城県東松島市の児童館へ、絵本は東松島市立図書館へ送られました。

6月後半からはNPO法人セカンドハーベスト名古屋等との協働で「ごほん応援箱」の活動に参加し、食料品を集めました。その結果、砂糖や塩、しょうゆや缶詰など約10kgの食料を集めた段ボール17箱を宮城県山元町内の避難所で生活されているご家庭にお届けすることができました。この「ごほん応援箱」は2学期も引き続き活動を行っています。

また7月には高校のしらゆり祭生徒会バザーへ品物と手作りシュシュの献品を中学でも呼びかけ、多



くの人々にご協力をいただきました。

現在はベルマーク教育助成財団の「被災校援助プロジェクト」を知った1年H組の生徒が生徒会に呼びかけ、ベルマークとインクカートリッジの回収も行っています。被災地の方々の1日も早い復興をお祈りしつつ、今後もこうした活動を続けていきます。

## 3年Dignity「こんな生きかたしてみたい-『平和に生きる人びと』に学ぶ-

中学校Dignity(総合学習)は「共に生きる」を課題目標に掲げています。この目標に沿って、社会の中で「平和に生きる人びと」を講師に迎え、授業をお願いしています。

「平和に生きる人びと」とは、障害者施設の働き手やフェアトレードのお店経営者、数種に及ぶNPOスタッフ、社会福祉事業の関係者、牧師などのことです。こうした先生方の講演をお聞きし、講演をもとに生徒たちには「こ

んな生きかたしてみたい」というタイトルで小論文の課題が与えられます。授業を受け、小論文作成に取り組むことで生徒たち一人ひとりが「ピースメーカー」であることを自覚し、「自分と平和との関わりを深めよう」と再確認できるのです。

1学年に延べ9人の講師をお迎えする豪華な授業ですが、講師の方々もご多忙の中にもかかわらず喜んで来て下さることを深く感謝しています。



この授業を通して、生徒たちの心の中や毎日の生活に「他者へのいたわり」や「ともに生きる」ための種が蒔かれていることを信じています。

## 日頃の練習成果を存分に発揮! テニス部が全国中学生テニス大会に出場

中学テニス部が8月に兵庫県神戸市、三木市で行われた全国中学生テニス選手権大会に出場し、選手全員が渾身のプレーを行いました。

この全国大会をめざして、日々練習を積み重ねてきた選手たち。大会では1回戦で大阪のチームと対戦、チーム

一丸となって精一杯戦い熱戦を繰り広げました。結果は惜しくも負けてしまいましたが、日頃の練習の成果は十分に発揮。この経験を活かし、次の大会を目標にこれからもみんなで一生懸命練習に励んでいきます。



## 秋分の日、幼稚園父母の会バザーを開催 震災復興をテーマに父母も園児たちも 心温まる手作り作品を制作

幼稚園では9月23日に恒例の幼稚園父母の会バザーが開催されました。今年のバザーは「東日本大震災復興支援」がテーマ。父母の会のバザー委員の方を中心に、5月からたくさんのセンスあふれる品々を準備して下さいました。長期間にわたり献身的に準備された方々には感謝の気持ちでいっぱいです。こうした奉仕の心は園児たちの父母から父母へと年々受け継がれています。



当日は手作り品と新品に限った献品や、クリスマスオーナメントなどのショップが開かれました。中でも『こどもマーケット』は整理券が必要なほどの人気ぶりでした。その他にもみんなで楽しめるゲームコーナーや、うち



わやぶんぶんゴマを作ってあそぼうコーナー、青のりで好きな絵が描けるのりせんコーナー、おいしいお弁当やコーヒーなどでくつろげるコーナーなどが設けられ、園舎園庭は大盛況でした。また卒園生父母による「支える会」の骨髓バンク基金コーナーや、プロ級のパネルシアターなども開催。いずれのコーナーもボランティアの卒園生や大学生が大活躍しました。中には大阪や東京から駆けつけてお手伝いしてくれた卒園生も。その心意気が大変嬉しく、頼もしく感じられました。



今回のバザーに取り組む園児たちにも、大震災のことや復興のことを教えることは大変難しいことでした。しかし、毎日園庭で思いきり走り、土に触れて遊ぶことができること、大好きな

家族がそばにいてくれること、こうしたことに感謝しなければいけないことや、それができない人がいることを伝えて「その方々にも喜びや楽しみの日が訪れますように」と日々みんなでお祈りしています。こうしたことを踏まえ、バザーでは何ができるのかを園児たちと保育者で一生懸命考えました。その結



果、「花屋さん」「アイスクリーム屋さん」を開き、その売上げはすべて義援金に。園児たちは今まで作りためた毛糸のシュシュ、本物そっくりのアイスクリームの制作品、折り紙などを「ありがとう」の気持ちを込めてお客様にお渡ししました。園児たちはこれらの「おまけプレゼント」を作り、準備してきたことや、実際にお店屋さんをする中で、自分たちもお役に立てた喜びと、被災された方々が少しでも元気になってくださるといいなという想いが深められたことでしょう。

